

和泉市

男女共同参画に関する市民意識調査

調査結果報告書

【概要版】

1 調査の目的

平成 27 年度に策定した「第 3 期和泉市男女共同参画行動計画（オアシスプラン）」及び「和泉市配偶者等からの暴力防止及び被害者の支援に関する基本計画（DV 防止基本計画）」が、令和 8 年度で計画期間が終了するにあたり、改めて男女共同参画に対する市民の意識や現状について把握し、次期計画策定の基礎資料とするため実施しました。

2 調査対象

本市住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上の市民から無作為に抽出した男女 3,000 人

3 調査期間

令和 7 年 12 月 11 日～令和 8 年 1 月 8 日

4 調査方法

郵送配布、郵送・WEB 併用回収
(調査期間中に、はがきによる礼状兼依頼状の配布 1 回)

5 有効回答数

調査対象	配布数	回収数	回収率
本市住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上の市民から無作為に抽出した男女 3,000 人	3,000 件	1,165 件	38.8%

6 調査結果の表示方法

回答は各質問の回答者数を基数とした百分率 (%) で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。

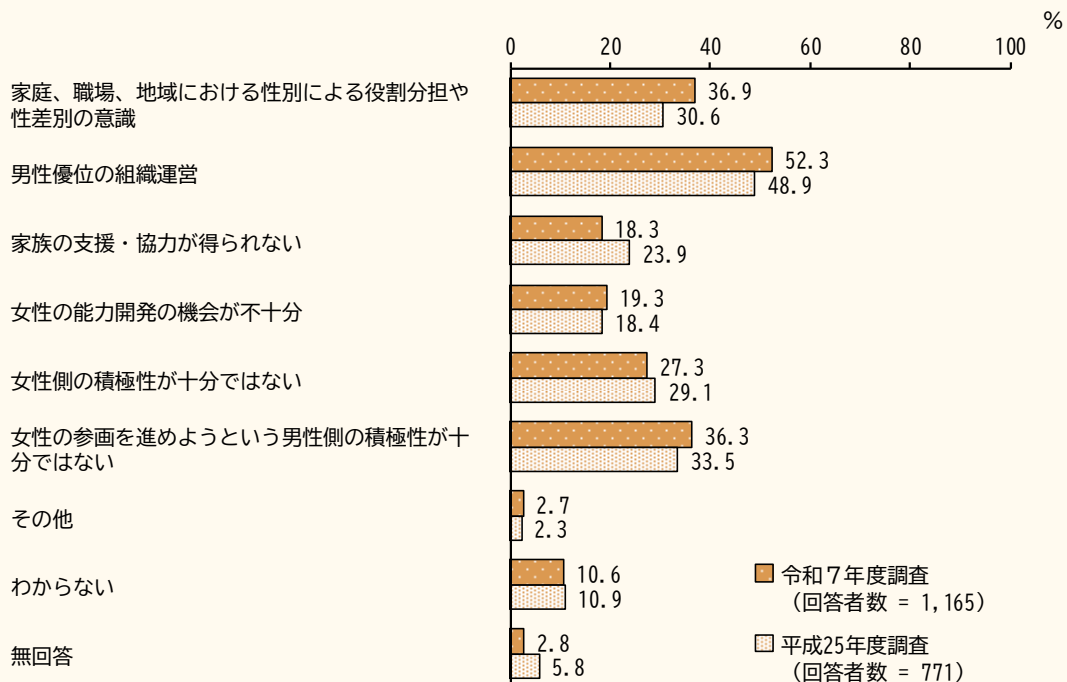
女性の参画を推進するための市民意識の醸成（特に防災分野における女性参画）

Q

あなたは政治・行政・職場や地域において、政策方針決定の場への女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。（〇はいくつでも）【問 39】

「男性優位の組織運営」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」の割合が 36.9%、「女性の参画を進めようという男性側の積極性が十分ではない」の割合が 36.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」の割合が増加しています。一方、「家族の支援・協力が得られない」の割合が減少しています。

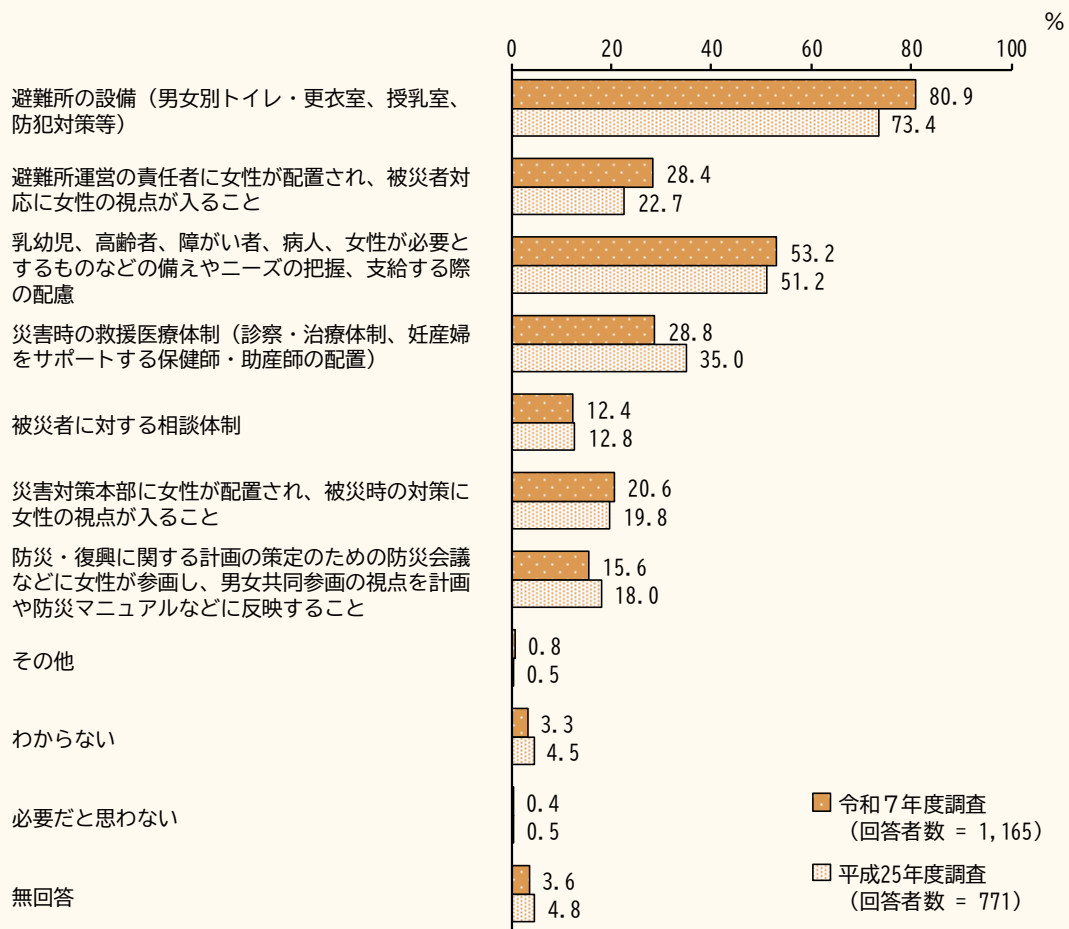




防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要が特にあると思うことは何ですか。(〇は3つまで)【問 38】

「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、授乳室、防犯対策等）」の割合が 80.9%と最も高く、次いで「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性が必要とするものなどの備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が 53.2%、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」の割合が 28.8%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、授乳室、防犯対策等）」「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」の割合が増加しています。一方、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」の割合が減少しています。

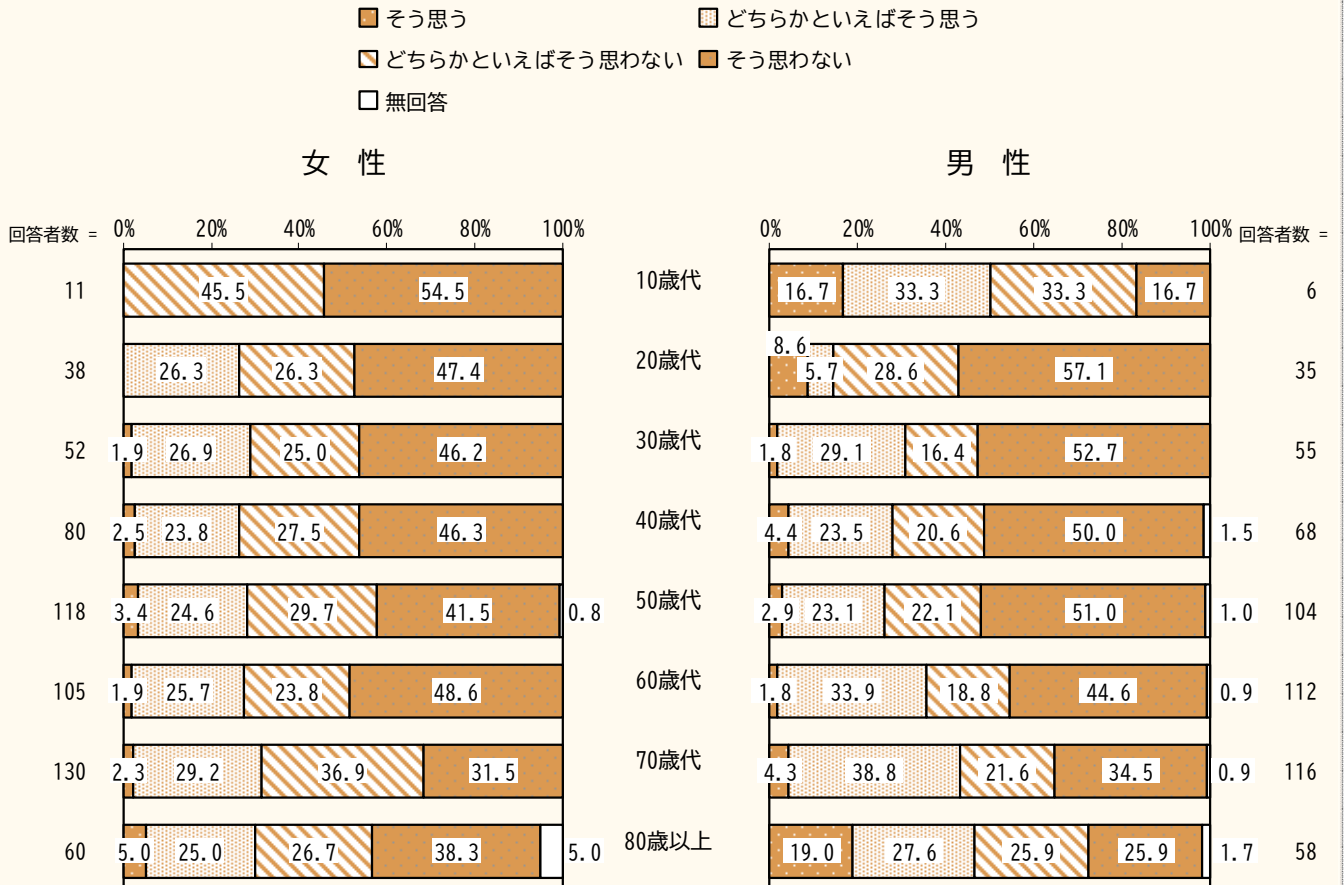


男性の長時間労働の是正と「無意識の思い込み」の解消

Q

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。
(○は1つ)【問11】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“そう思わない”の割合が高い傾向にあります。また、男性80歳以上で“そう思う”の割合が高くなっています。





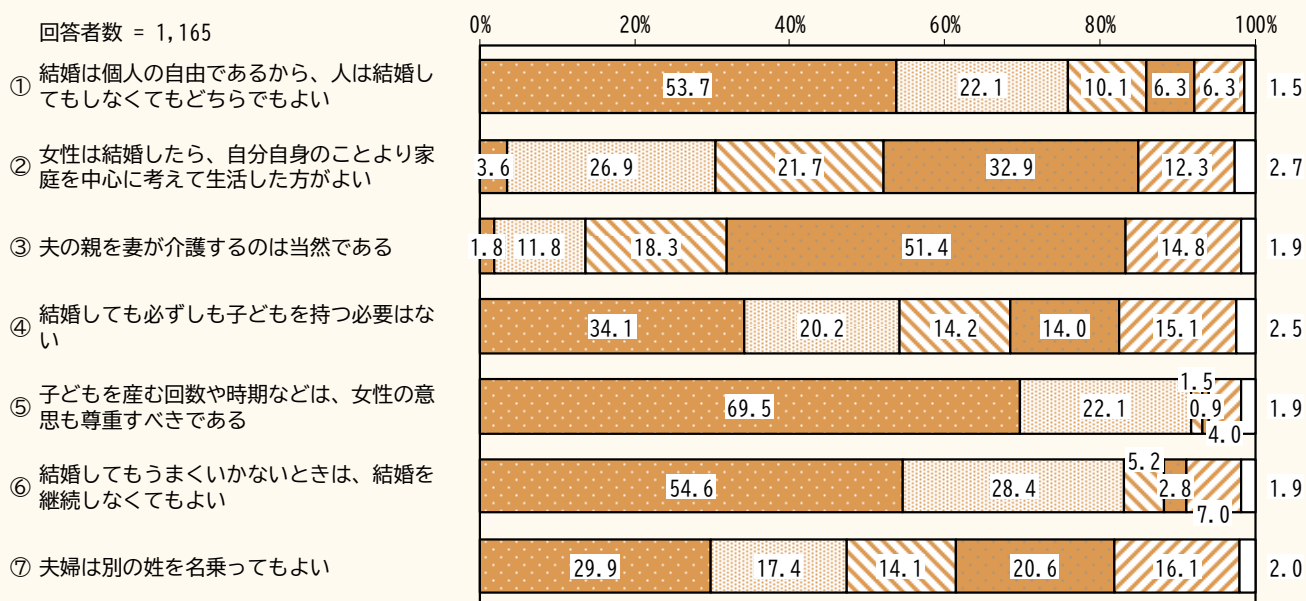
次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

(①～⑦のそれぞれについて1つに○)【問 14】

『⑤子どもを産む回数や時期などは、女性の意思も尊重すべきである』で「そう思う」が、『⑥結婚してもうまくいかないときは、結婚を継続しなくてもよい』で「どちらかといえばそう思う」が、『②女性は結婚したら、自分自身のことより家庭を中心に考えて生活した方がよい』で「どちらかといえばそう思わない」が、『③夫の親を妻が介護するのは当然である』で「そう思わない」が、『⑦夫婦は別の姓を名乗ってもよい』で「どちらともいえない」が高くなっています。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- どちらともいえない
- 無回答

回答者数 = 1,165





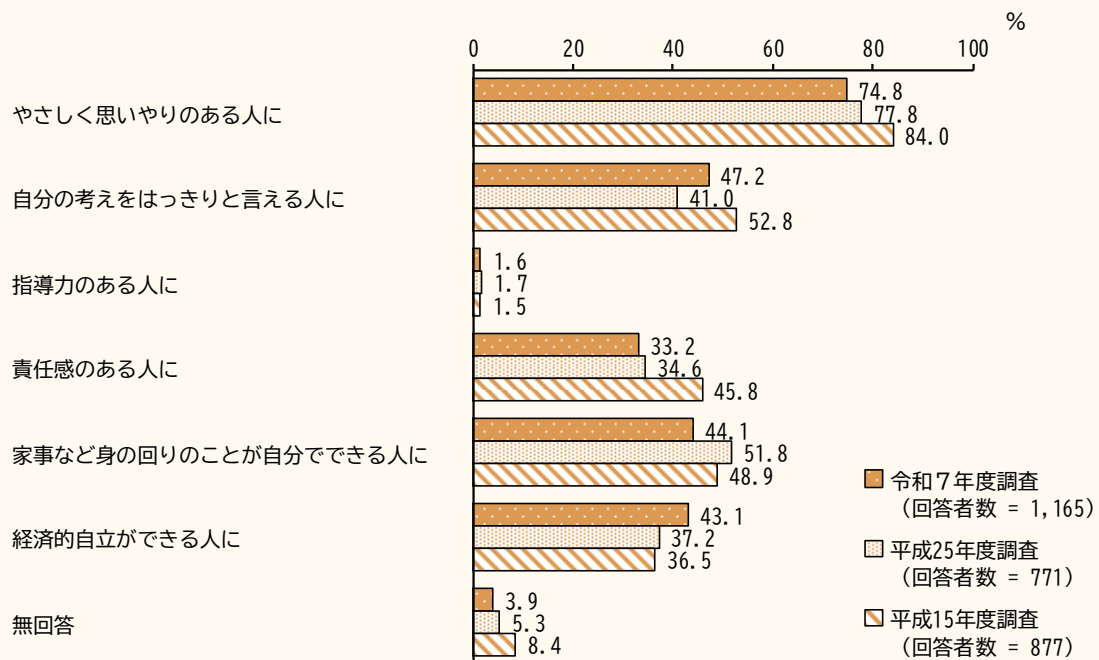
あなたは、女の子、男の子は、それぞれどのように育つのがふさわしいと思いますか。
 (①、②のそれぞれについて3つに○)【問 24】

① 女の子

「やさしく思いやりのある人に」の割合が74.8%と最も高く、次いで「自分の考えをはっきりと言える人に」の割合が47.2%、「家事など身の回りのことが自分でできる人に」の割合が44.1%となっています。

過去調査と比較すると、平成15年度調査から「経済的自立ができる人に」の割合が増加しています。一方、「やさしく思いやりのある人に」「責任感のある人に」の割合が減少しています。

また、平成25年度調査から「自分の考えをはっきりと言える人に」の割合が増加しています。一方、「家事など身の回りのことが自分でできる人に」の割合が減少しています。

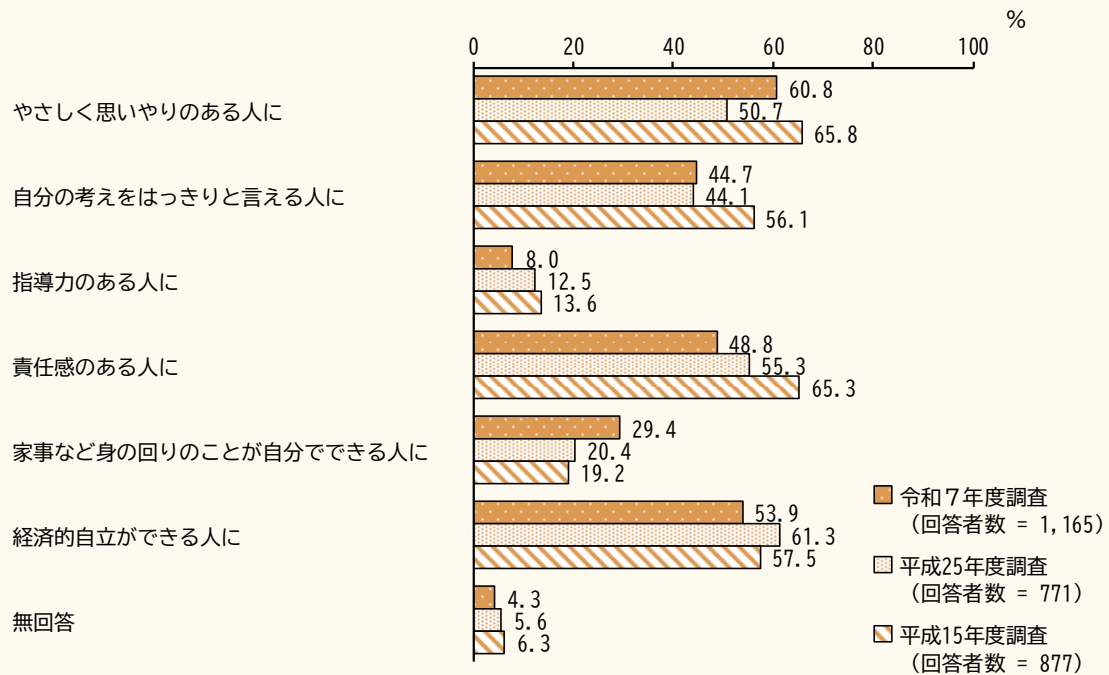


② 男子

「やさしく思いやりのある人に」の割合が60.8%と最も高く、次いで「経済的自立ができる人に」の割合が53.9%、「責任感のある人に」の割合が48.8%となっています。

過去調査と比較すると、平成15年度調査から「家事など身の回りのことが自分でできる人に」の割合が増加しています。一方、「指導力のある人に」「責任感のある人に」の割合が減少しています。

また、平成25年度調査から「やさしく思いやりのある人に」の割合が増加しています。一方、「経済的自立ができる人に」の割合が減少しています。



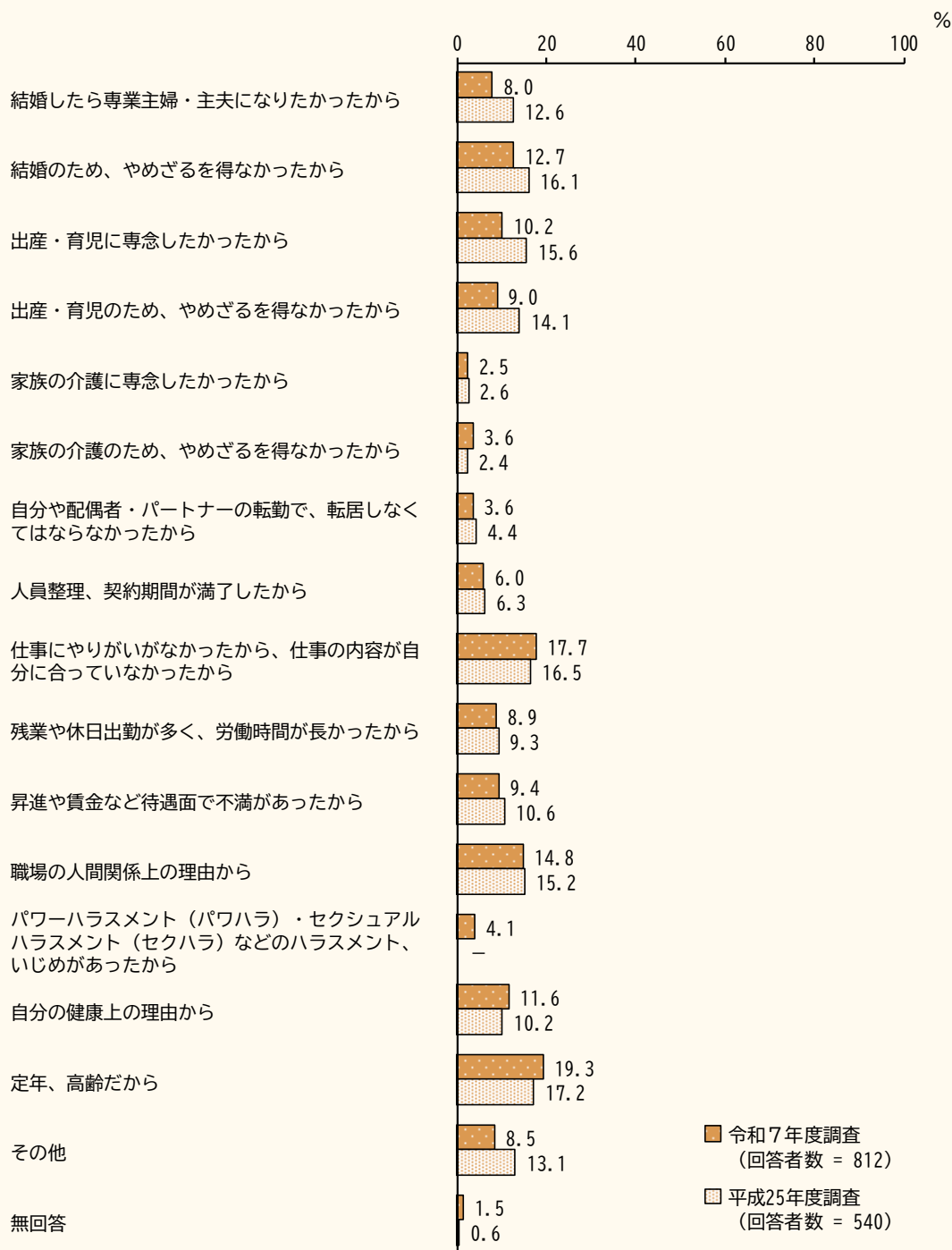
「男女共同参画センター」の認知度向上と連携拠点としての機能強化

Q

あなたが直近で仕事をやめたときの理由は何ですか（〇は3つまで）【問 28-1】

「定年、高齢だから」の割合が19.3%と最も高く、次いで「仕事にやりがいなかったから、仕事の内容が自分に合っていなかったから」の割合が17.7%、「職場の人間関係上の理由から」の割合が14.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「出産・育児に専念したかったから」「出産・育児のため、やめざるを得なかったから」の割合が減少しています。



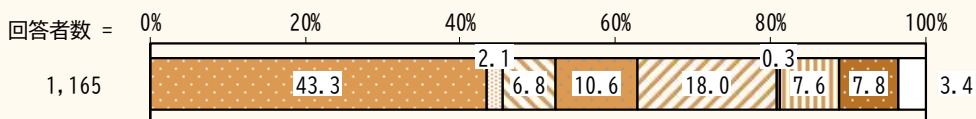
※平成25年度調査では、「パワーハラスメント（パワハラ）・セクシュアルハラスメント（セクハラ）などのハラスメント、いじめがあったから」がありませんでした。



一般的に女性が仕事をする事について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)
【問 29】

「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」の割合が43.3%と最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」の割合が18.0%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」の割合が10.6%となっています。

- 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい
- 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する方がよい
- 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する方がよい
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい
- 仕事には就かない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



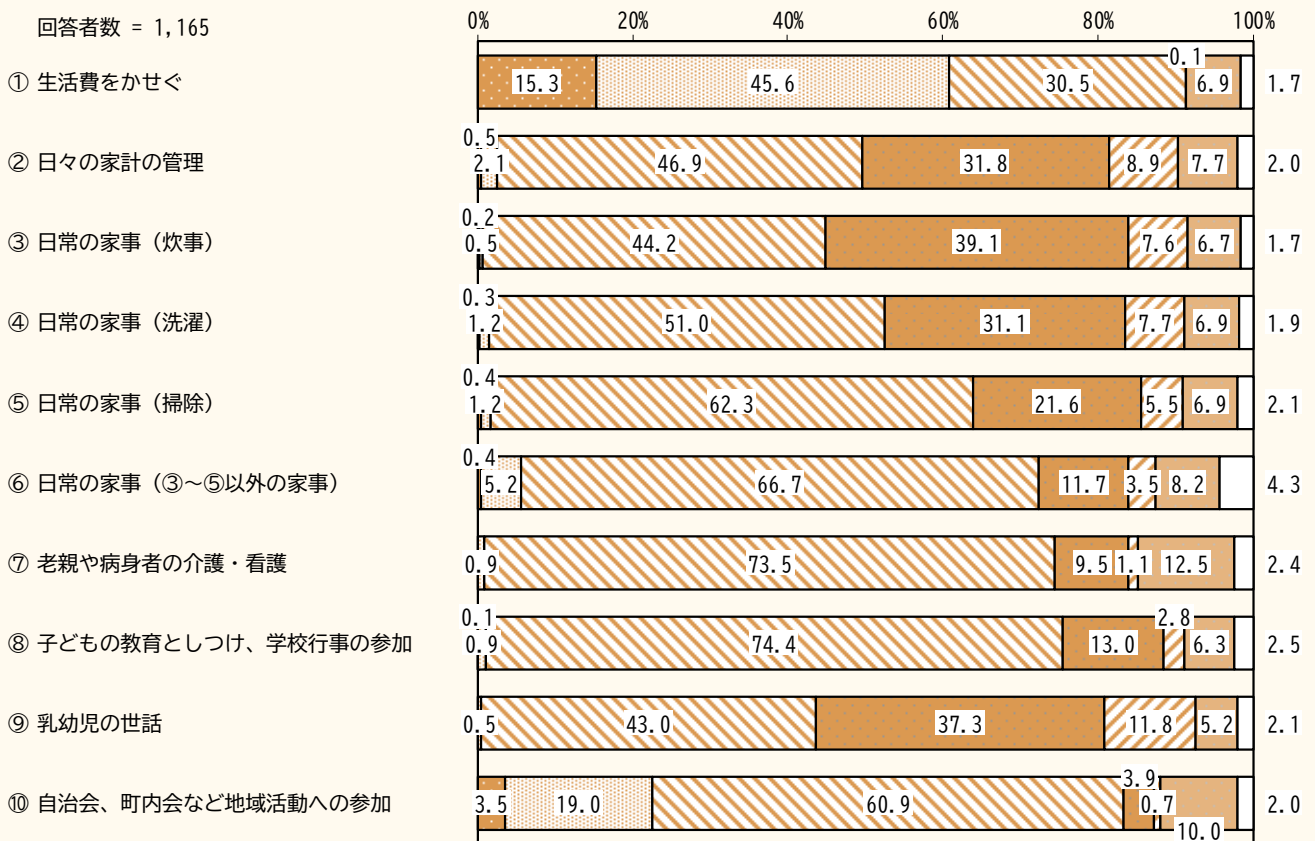


次のことについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(①～⑩のそれぞれについて1つに○)【問15】

『①生活費をかせぐ』で「主に男性の役割」「どちらかといえば男性の役割」が、『⑧子どもの教育としつけ、学校行事の参加』で「両方同じ程度の役割」が、『③日常の家事(炊事)』で「どちらかといえば女性の役割」が、『⑨乳幼児の世話』で「主に女性の役割」が、『⑦老親や病身者の介護・看護』で「いずれにも該当しない」が高くなっています。

- 主に男性の役割 □ どちらかといえば男性の役割 ▨ 両方同じ程度の役割
- どちらかといえば女性の役割 ▨ 主に女性の役割 □ いずれにも該当しない
- 無回答

回答者数 = 1,165





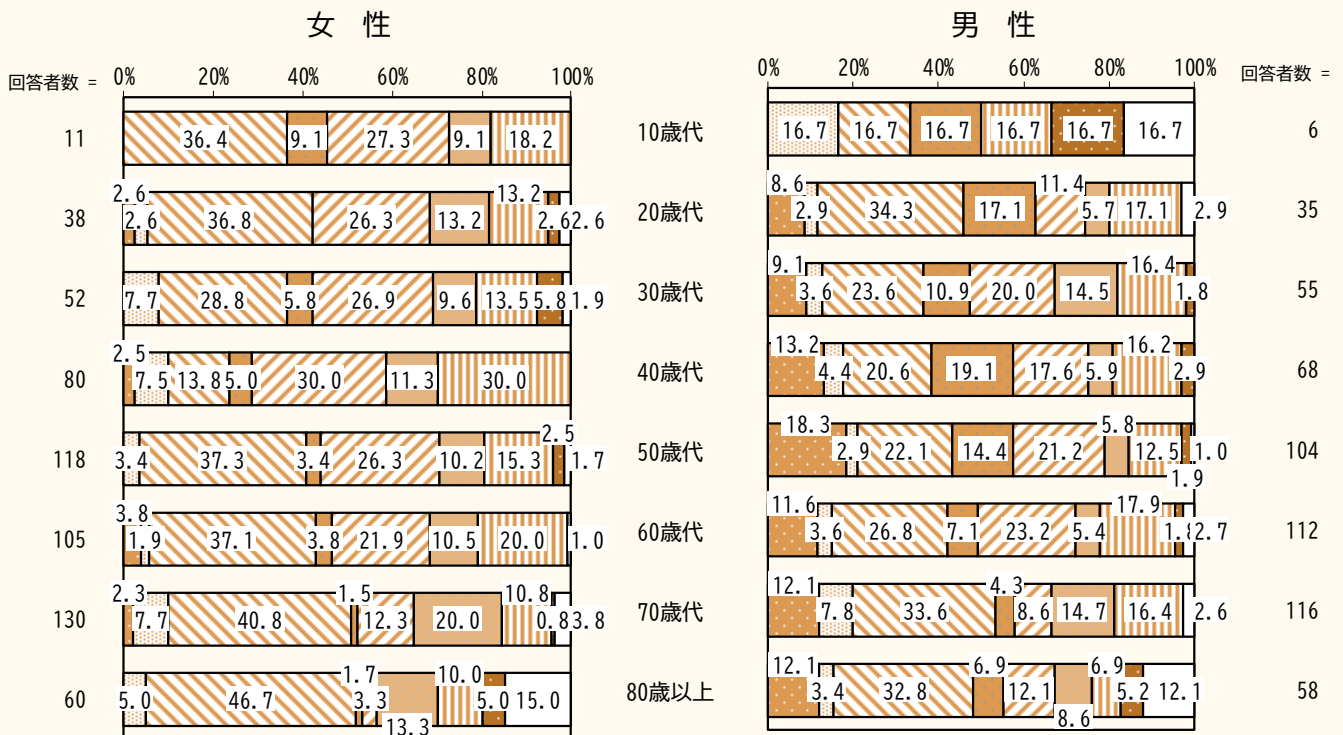
あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

【問 17】

① 希望

性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど、男性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいの割合が高い傾向にあります。また、女性80歳以上で「個人の生活」を優先したい、女性40歳代で「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたいの割合が高くなっています。

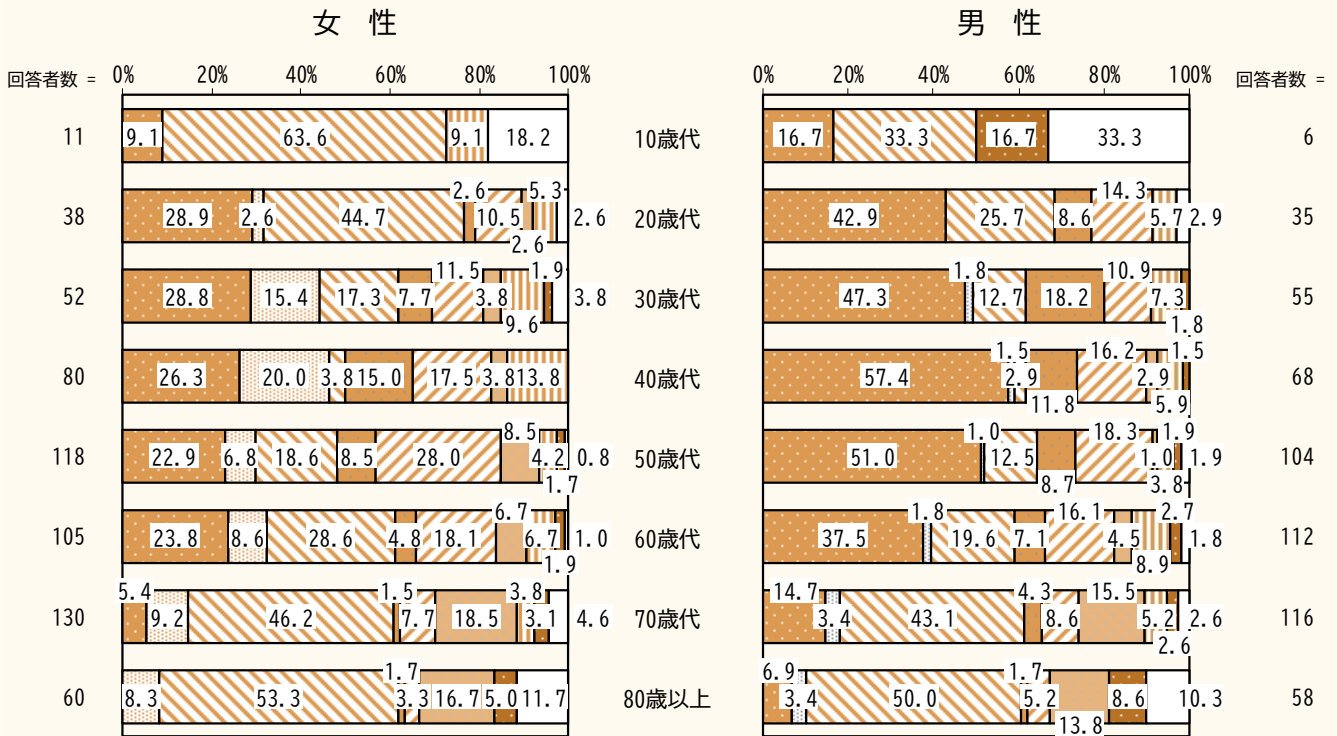
- 「仕事」を優先したい
- 「家庭や地域活動」を優先したい
- 「個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先したい
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい
- その他
- 無回答



② 現実

性・年代別にみると、80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど、女性では「仕事」を優先している」の割合が高い傾向にあり、男性では「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先している」の割合が高くなっています。また、女性50歳代で「仕事」と「個人の生活」をともに優先している」の割合が高くなっています。

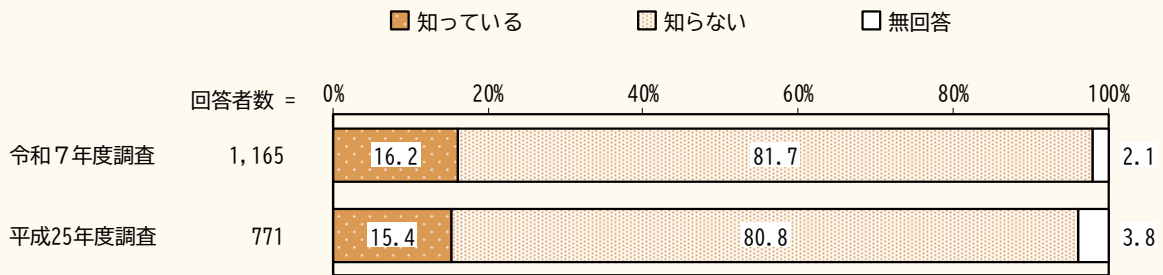
- 「仕事」を優先したい
- 「家庭や地域活動」を優先したい
- 「個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先したい
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい
- その他
- 無回答





和泉市では、男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設として「男女共同参画センター」をシティプラザに設置していますが、あなたをご存知ですか。(○は1つ)
【問 47】

「知っている」の割合が16.2%、「知らない」の割合が81.7%となっています。
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



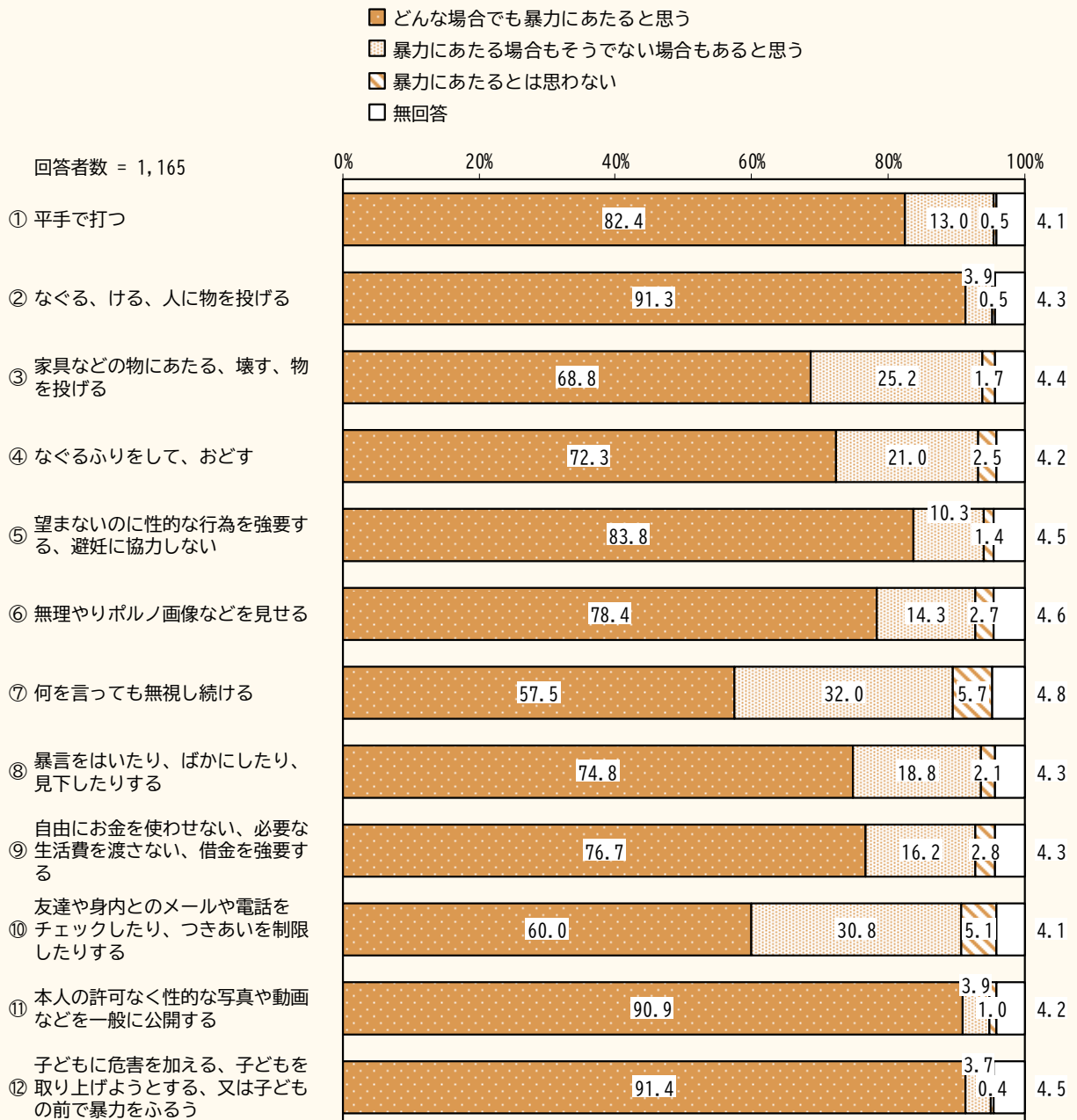
潜在化するDV被害の掘り起こしと「精神的暴力」への正しい認識の普及

Q

あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いませんか。あなたの考えに近いものを選んでください。

(①～⑫のそれぞれについて1つに○)【問 40】

『⑫子どもに危害を加える、子どもを取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう』で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が、『⑦何を言っても無視し続ける』で「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」「暴力にあたるとは思わない」が高くなっています。



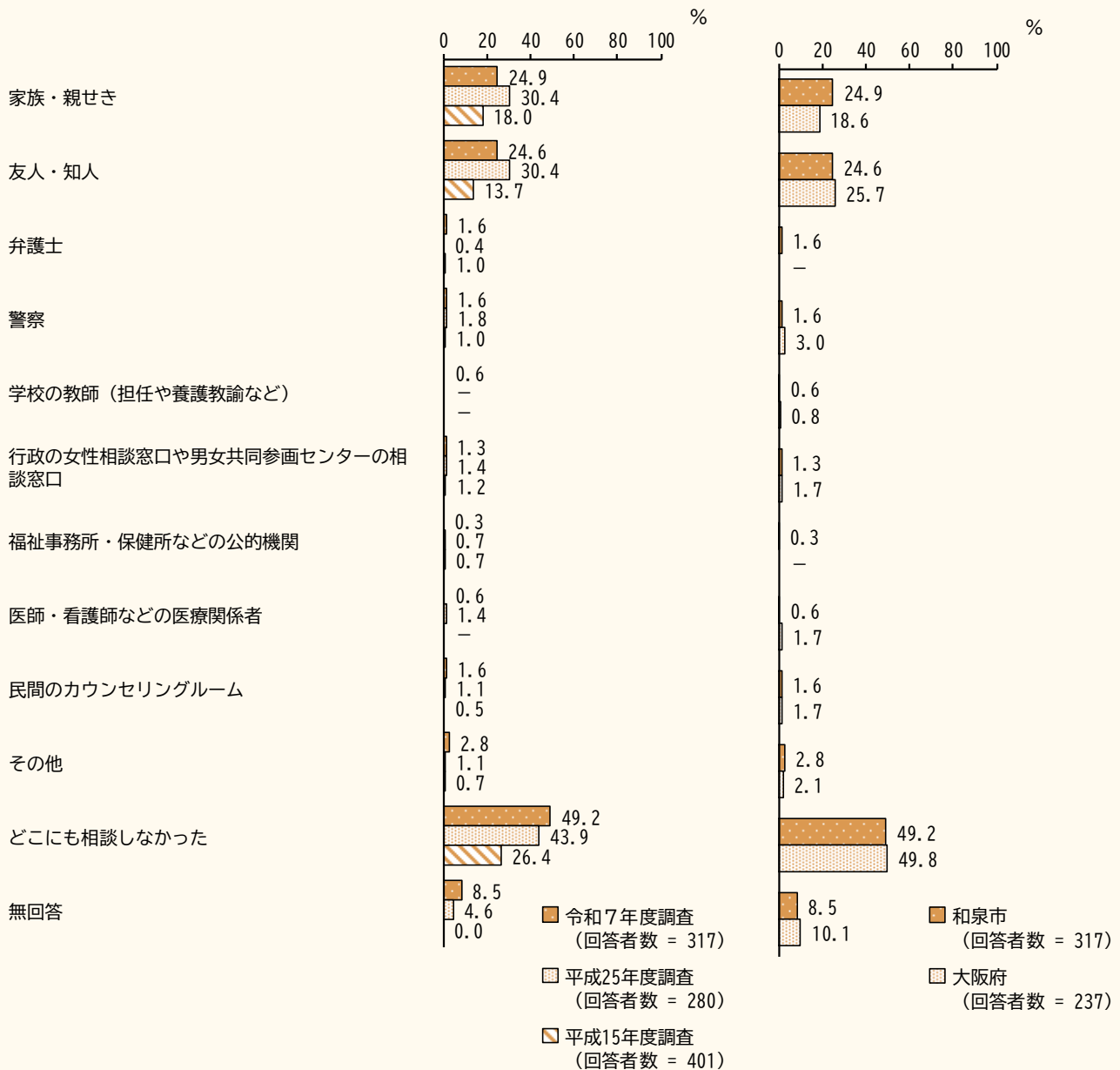


あなたは暴力を受けたとき誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(〇はいくつでも)【問 41-1】

「どこにも相談しなかった」の割合が49.2%と最も高く、次いで「家族・親せき」の割合が24.9%、「友人・知人」の割合が24.6%となっています。

過去調査と比較すると、平成15年度調査から「どこにも相談しなかった」の割合が増加しています。

また、平成25年度調査から「家族・親せき」「友人・知人」の割合が減少しています。大阪府と比較すると、「家族・親せき」の割合が高くなっています。



※平成25年度調査では、「学校の教師 (担任や養護教諭など)」がありませんでした。

平成15年度調査では、「学校の教師 (担任や養護教諭など)」、「医師・看護師などの医療関係者」がありませんでした。

※大阪府では、「学校の教師 (担任や養護教諭など)」が「学校関係者 (教員、スクールカウンセラーなど) に相談した」、「行政の女性相談窓口や男女共同参画センターの相談窓口」が「市町村など役所の相談窓口」に相談した、「医師・看護師などの医療関係者」が「医療関係者 (医師、看護師など) に相談した」、「民間のカウンセリングルーム」が「民間の専門家や専門機関 (弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど) に相談した」となっており、「弁護士」、「福祉事務所・保健所などの公的機関」がありませんでした。



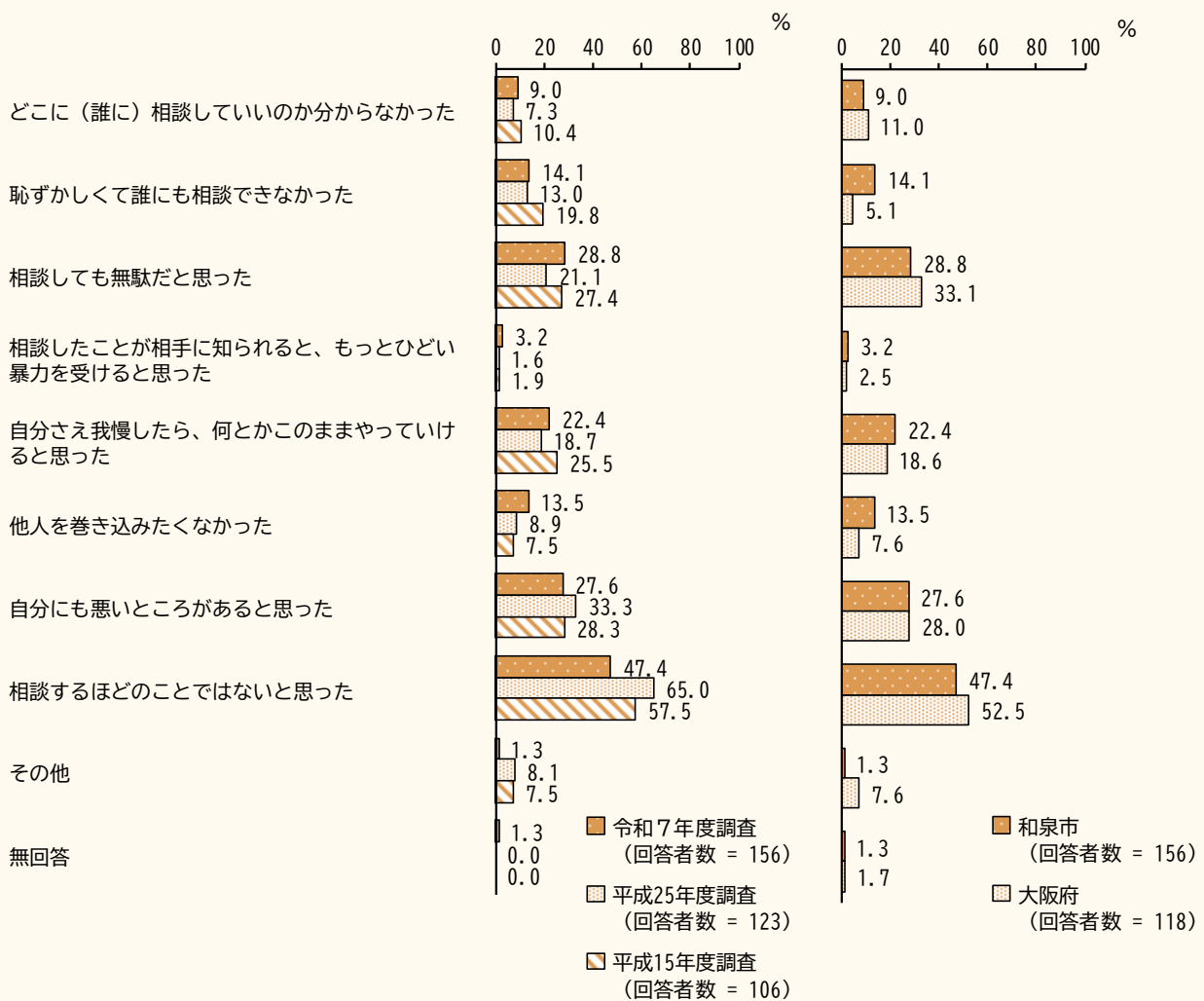
相談しなかったのはどうしてですか。(〇はいくつでも)【問41-2】

「相談するほどのことではないと思った」の割合が47.4%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」の割合が28.8%、「自分にも悪いところがあると思った」の割合が27.6%となっています。

過去調査と比較すると、平成15年度調査から「他人を巻き込みたくなかった」の割合が増加しています。

また、平成25年度調査から「相談しても無駄だと思った」の割合が増加しています。一方、「自分にも悪いところがあると思った」「相談するほどのことではないと思った」の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、「恥ずかしくて誰にも相談できなかった」「他人を巻き込みたくなかった」の割合が高くなっています。



※大阪府では、「相談したことが相手に知られると、もっとひどい暴力を受けると思った」が「相談したことがわかって、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」となっていました。